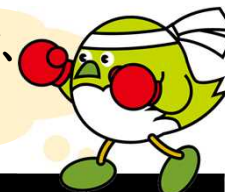


第6波以降 クラスターが起こった施設では 平時にこんなことがありました！

長引くコロナ対応ですが、
もう一踏ん張り
頑張りましょう！



場面	間違った事例	対策
施設に持ち込む	出勤時に着ていた服のまま勤務する	出勤時は清潔な仕事着に着替える（持ち込まない・持ち帰らない） ※体調が悪いときは、職場に相談して出勤を控える
職員間で感染が広がる	いつも一緒に働く職員同士でマスクをつけずに会話する	いつも一緒に過ごしているからと 油断せず、必ずマスクを着用 する ※マスクは正しく着けてこそ効果あり！（鼻からあごまでしっかり覆い、隙間ができないように着用する）
ケアを通して、利用者に感染が広がる	フェイスシールドが不足しているため着用せずに口腔ケアを行う	感染リスクの高いケア（食事介助・排泄物処理・陰部洗浄・吸引処置・口腔ケア等）を行う時は、飛沫防止のため、マスク・長袖エプロン（防護服）・手袋1組・キャップ・フェイスシールドを着用する
	利用者Aのケアをしたあとに手袋をしていたので消毒しないまま、利用者Bのケアを行う	1利用者（ケア）1消毒、手袋の交換 を徹底する （消毒→手袋をはずす→消毒→新しい手袋を着用）
	手袋を替えずに、次の利用者のケアを行う	※个人防护具を着用したまま他の業務を行わない また、利用者ごとに交換する
	利用者が難聴や認知症のため、マスクを外して口元を見せながら近距離で会話する	口元を見せたいときは、フェイスシールドを使用する 難聴の方には筆談を使うなどコミュニケーション方法を工夫する ※可能な限りマスクを着用してください
汚染された環境を通じて、利用者に感染が広がる	職員が利用者と同じトイレを使う	職員用と利用者用でトイレを分ける 消毒は1人毎が望ましいが、難しい場合は朝夕1回ずつ行う
	汚染された手や手袋でゴミ箱の蓋を開ける	蓋が汚染されているので、蓋に触れたあとは必ず手指消毒を行う ※可能であれば、足踏み式で蓋を開閉できるスタンドを準備する
消毒の効果がでない	消毒液の濃度が薄い	手指用消毒液はエタノール濃度70%以上を使用 環境用消毒液は次亜塩素酸ナトリウム液を使用









次亜塩素酸Na液の
作り方はこちら→



グリーンゾーン
(清潔エリア)で行う

個人防護具(PPE)のつけ方

- ①手指消毒をする 
- ②サージカルマスクをつける 
- ③ガウンを着る 
- ④キャップをつける※ 
- ⑤フェイスシールドをつける 
- ⑥手袋をつける※ 

※キャップ：髪の毛から感染することはほとんどないため不要。
髪を触れる癖のある職員、大量の飛沫を浴びる可能性のある場合や、
感染者から頭を触れられる可能性がある場合は着用を検討。

※手袋：1組でよい。感染者ごとに外して手指消毒を行い、再装着していく。



レッドゾーン
(汚染エリア) で行う

個人防護具(PPE)のはずし方

①手袋を外す

②手指消毒をする

③ガウンを脱ぐ

※ガウンの外側を持ち、ひもの部分(首・腰)をちぎる

※汚染している外側に触れないように、内側に小さく折り込んでいく

※脱ぐ際に自分の衣服に触れないように注意

④フェイスシールド※1 → (一緒でも可) キャップを脱ぐ

⑤ひもを持ってマスクを外す

⑥手指消毒をする

⑦新しいマスクをつける

一番汚染されている部分から順に
脱衣するのがポイント!

1手順ごとに
手指消毒の徹底

※1 フェイスシールドを再利用する場合は、
脱いだ後に手袋をつけてアルコール面で
一方向に拭き、乾燥させる

手指消毒が疎かになると、自身が感染する可能性
何度も練習し、互いに確認し合うこと